

# 保育園における危機管理について②

## 園児の急病

### 毎日の健康観察の基本的対応

- ① まず、「気が付く」ことから始まる。熱っぽい、顔色がさえない、機嫌が悪い、体にブツブツが出ている、というようなことに気が付く。
- ② 重いか、軽いかの判断・今すぐに何かをしなければならない状態か、様子を見る状態かを体温だけでなく他の症状や機嫌等、全体の様子で判断する。この場合、複数の保育者で話し合う。(以下 3.4. も)
- ③ うつる病気かどうかの判断  
現在どんな感染症が流行っているかなどの情報を積極的につかんでおく。  
都道府県の感染症情報センターや保健所のホームページが良い。
- ④ 急を要するかの判断・保護者に連絡。



### チェックポイント

- ① 入園時に保護者から子どもの既往症を聞き取るなどして園児の健康状態を把握しているか。
- ② 病気の症状などを書籍などで勉強しているか。
- ③ 子どもの様子がいつもと違うなど気づくことによって病気や異常が発見されることが多いので、全体の様子がいつもとどう違うか、「いつもの健康状態」を的確に把握しているか。

「保育所における感染症対策ガイドライン」(厚生労働省、平成 21 年 8 月)<http://bit.ly/ai085H> の 17 ページに次のような記述がある。基本的な考え方は同じである。

【以下引用・・・・・・・・・・】

「別添 2 子どもの病気 ～症状に合わせた対応～子どもの元気な時の『平熱』を知っておくことが症状の変化に気づくめやすになります

○ いつもと違うこんな時は子どもからのサインです！

- ・ 親から離れず機嫌が悪い（ぐずる）
- ・ 睡眠中に泣いて目が覚める
- ・ 元気がなく顔色が悪い
- ・ きっかけがないのに吐いた
- ・ 便がゆるい
- ・ いつもより食欲がない
- ・ 目やにがある。目が赤い

○ 今までなかった発しんに気がついたら・・・

- ・ 発しん以外の症状はないか？
- ・ 時間とともに増えていないか？

などの観察をしましょう

- ・ クラスやきょうだい、一緒に遊んだ友だちの中に、疑われる感染症はでていないか確認をしましょう」